

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	福島区
学 校 名	大阪市立野田中学校
学校長名	森川 和彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・野田中学校では、第3学年 102名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○国語A、B、数学A、Bすべて大阪市平均を上回り、とりわけ国語・数学ともB問題が大阪市平均を4ポイント上回っている点が目立つ。一方、全国平均との比較では国語・数学ともA問題が1ポイント以上下回っているが、国語Bは全国平均とほぼ同水準であり、数学Bは1ポイント近く上回っている。総じてB問題の平均正答率が高く、「考える力」が身につきつつあると考えられる。

○平均無回答率においては、国語A、B、数学A、Bのいずれにおいても全国平均、大阪市平均を下回っており、特に数学A、数学Bにおいては全国平均と比べても2～3ポイント程度低く、最後まであきらめず真摯に取り組む姿勢が身についていると判断できる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

領域別の正答率について、大阪市平均との比較ではすべてにおいて上回っている。全国平均との比較ではわずかではあるが下回っているものがほとんどであるが、B問題における記述式問題の正答率は全国平均を2ポイント以上上回っており、「課題解決学習」をはじめとする、主体的、対話的で深い学びの推進の成果であると考えられる。。

[数学]

生徒の規範意識の高まりとともに、学習意欲も向上し、無回答率の減少につながっていると考えられる。領域別の正答率をみるとA問題における関数の領域の正答率が全国平均を3ポイント以上下回っている。関数の意味を理解できていない生徒や、表とグラフの特徴を関連付けて考えることが苦手な生徒が多いように思われる所以、その指導に力を入れたい。

質問紙調査より

調査結果より、本校には「学校に行って友だちと会うことを楽しみにし、学級みんなで協力してものごとを最後までやり遂げたという達成感を持っている。規範意識をしっかりと持ちながら、学校生活を過ごしている」生徒が多い様子がうかがえる。しかし、「家庭学習習慣」、「新聞を読む」、「読書習慣」ということについては全国平均を下回っている反面、「インターネット等の利用時間やテレビ等の視聴時間」については全国平均を上回っており、本校の課題と考えられる。また、自分の考えを述べたり、他の人の話を聞き、それをまとめ、互いに話し合いをするという部分で課題が見受けられるので、引き続き、言語力や思考力を高める学習活動の方法を確立させることが急がれる。

今後の取組

○校内研修委員会を中心に、魅力的でわかる授業の構築のための校内授業研修会を実施する。
 ○学力向上委員会を中心に、言語活動の充実を念頭にした習熟度別少人数授業の深化、充実に取組む。
 ○情報教育委員会を中心に、ICT機器を活用した学習活動の工夫改善に取り組む。
 ○図書館補助員や学校元気アップ地域コーディネーターとも連携し、図書室の利用方法及び設備環境を改善し図書をより身近なものとして読書習慣を身につけさせる。
 ○中学生新聞等を定期購読し「読む」機会を高めるとともに「新聞教育」として国語科授業で新聞記事の要約や投稿など「書く」機会を増やし論理的思考能力の向上及び長文苦手意識の改善を目指す。

【 全体の概要 】

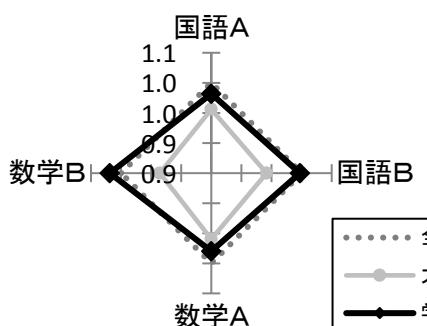
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	76	72	63	49
大阪市	74	68	62	45
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

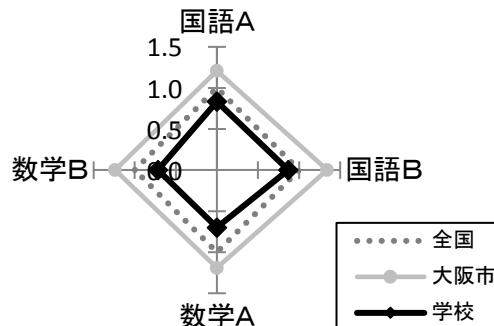
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.0	3.3	4.4	8.4
大阪市	2.9	5.1	7.5	14.5
全国	2.4	3.8	6.3	11.7

平均正答率(対全国比)



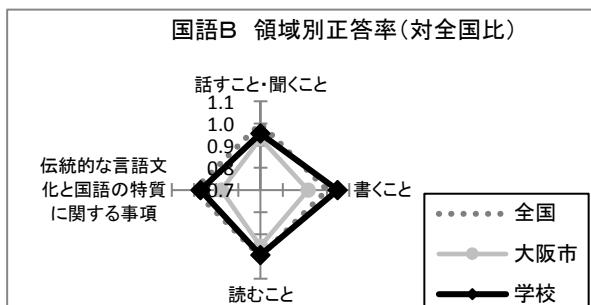
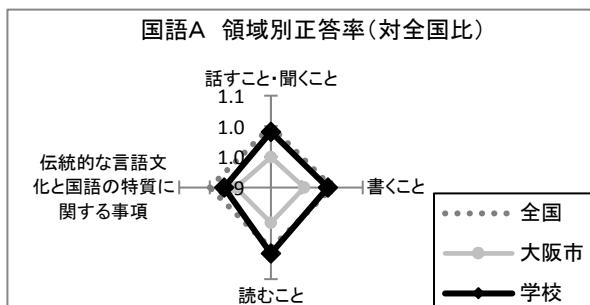
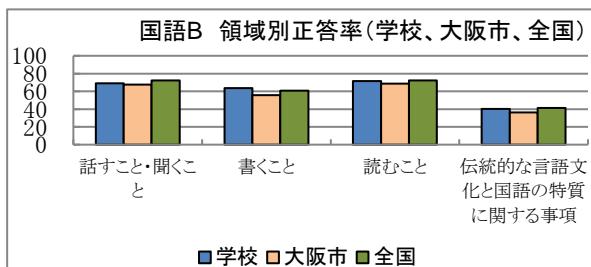
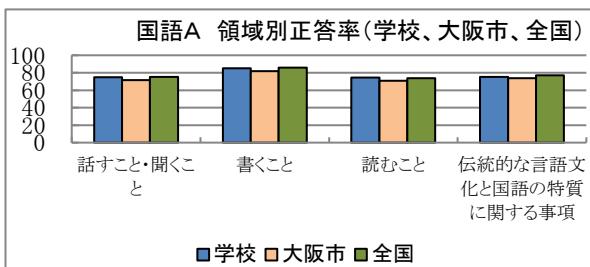
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	74.7	71.6
	書くこと	4	85.1	81.8
	読むこと	6	74.4	70.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	75.4	73.9

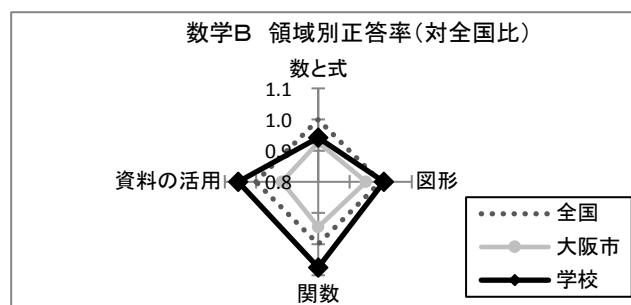
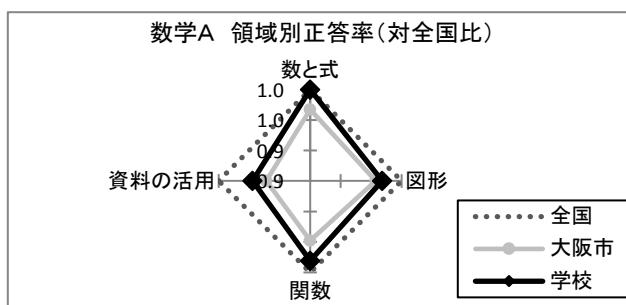
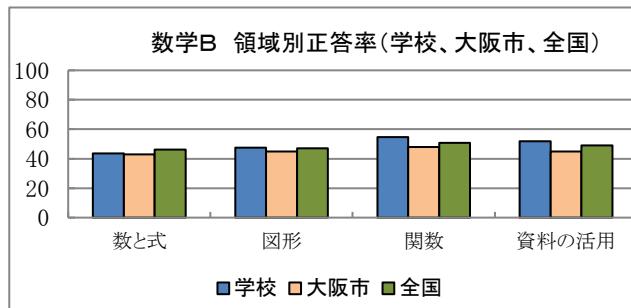
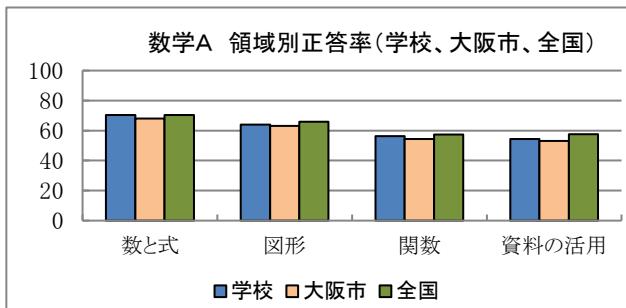
B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.1	67.5
	書くこと	4	63.7	55.6
	読むこと	4	71.6	68.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	40.2	36.3



【 数 学 】

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	70.4	68.1
	図形	12	63.9	63.2
	関数	8	56.3	54.4
	資料の活用	4	54.4	53.1

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	3	43.6	42.9
	図形	6	47.6	44.9
	関数	3	54.6	48.0
	資料の活用	3	51.9	45.0



生徒質問紙より

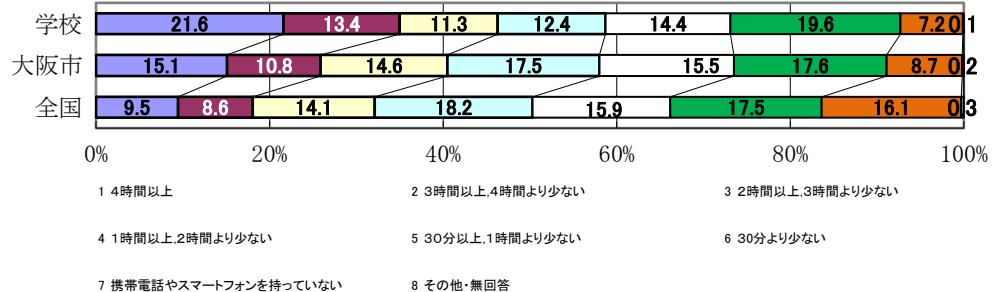
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10 ■11

質問番号

質問事項

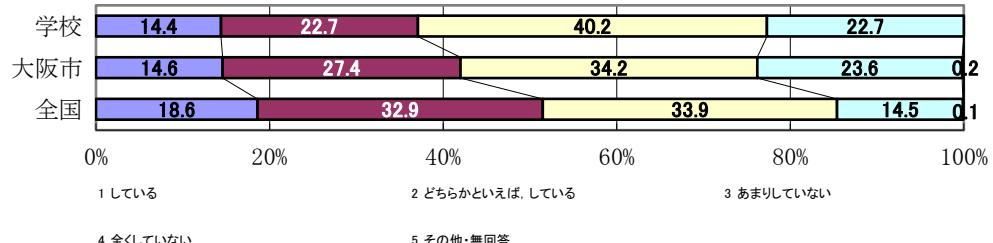
14

普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか
(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



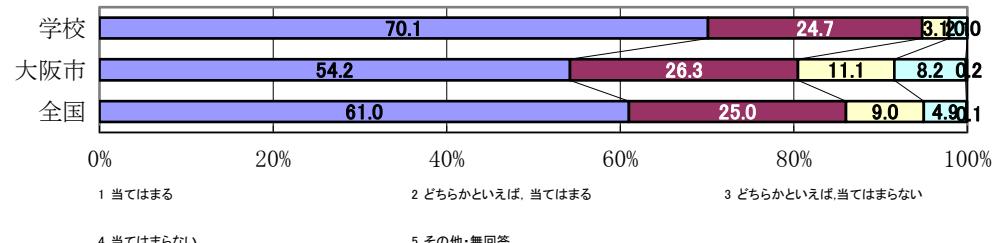
31

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



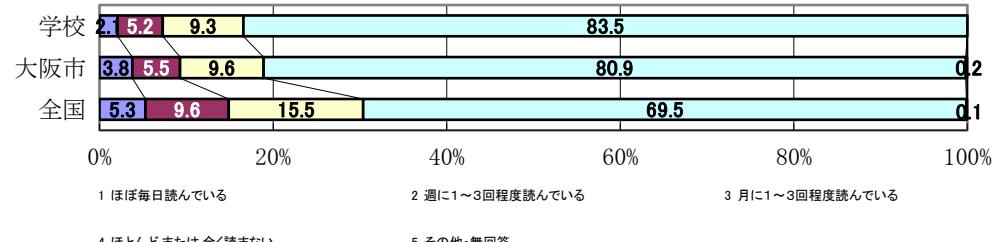
39

学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか



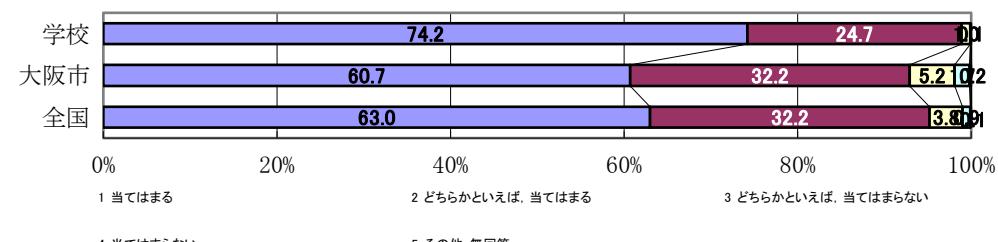
47

新聞を読んでいますか



51

学校の規則を守っていますか



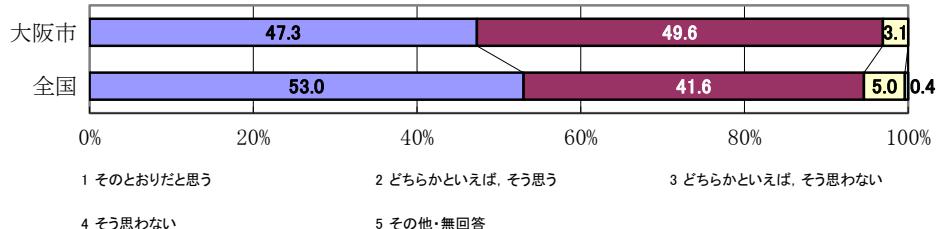
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
13

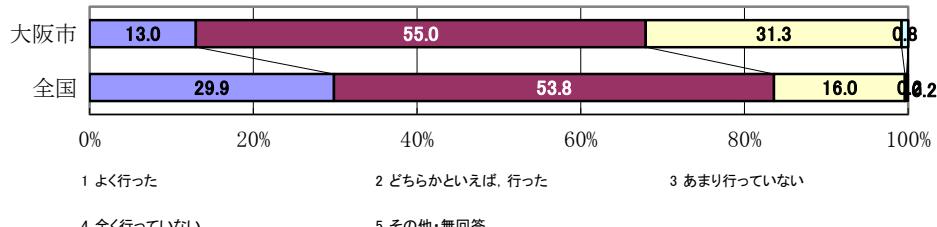
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「そのとおりだと思う」を選択



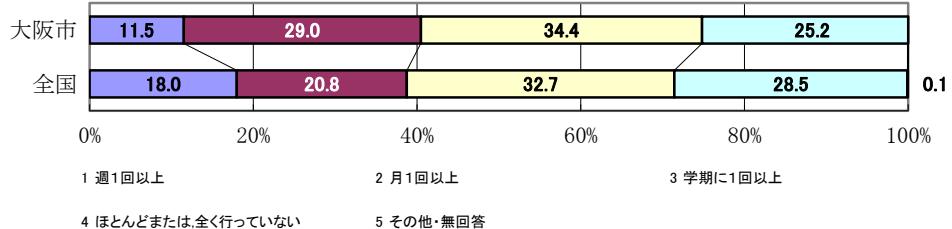
40
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか

学校 「よく行った」を選択



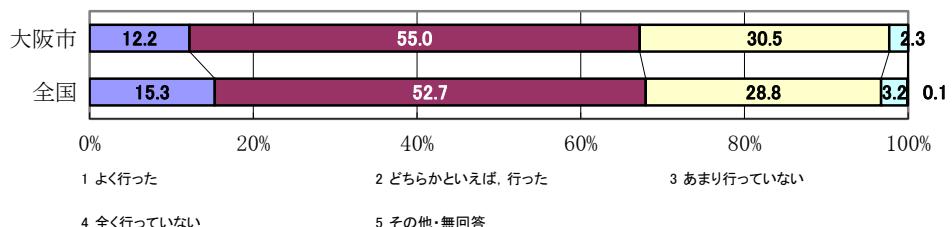
54
調査対象学年の生徒に対して、前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用した授業を行いましたか

学校 「週1回以上」を選択



82
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



108
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択

